

【特別支援学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

学校名	佐賀県立盲学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・自立と社会参加に向けた力の育成のために、保護者や関係機関と連携を取りながら、幼児児童生徒の実態に応じた支援・指導を行った。 ・専門性向上に向けた研究・研修の充実のために、職員研修等を通して専門性の向上に努めた。また、力を引き出す授業の実践を念頭に校内研究を進めた。 ・「目の支援センター ゆうあい」を中心に、関係諸機関とも連携しながら、弱視学級との連携や、地域に対する支援、啓発活動等を行い、センター的機能を周知することができた。
2 学校教育目標	視覚に障害のある幼児児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた適切な支援を行い、自立と社会参加及び心豊かな人格の形成を目指す。 - 明朗・友愛・自立 -
3 本年度の重点目標	『夢をはくくみ、未来をひらく盲学校』～「ほめる」からはじめる。はじまる。～ (1) 自立と社会参加に向けた力の育成(幼児児童生徒) (2) 専門性向上に向けた研究・研修の充実と力を引き出す授業の実践(教職員) (3) 視覚障害教育センター的機能の充実と周知(社会・地域)

達成度(評価) A:十分達成できている B:おおむね達成できている C:やや不十分である D:不十分である

4 重点取組内容・成果指標 5 最終評価

(1)共通評価項目				最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言
				●学力の向上	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児児童生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着 ●理療科生徒一人一人のニーズに応じた指導・支援による確かな学力の定着 	<ul style="list-style-type: none"> ○「学力の定着が図られた」「自立活動や各教科等を含めた指導における指導と評価が適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上 ○卒業予定者のあはき師国家試験合格率100%。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の実態を的確に把握するとともに、学習内容及び方法を適切に設定し、学習評価を通して効果的な学力の向上を図る。 ・全国および県の学力・学習状況調査やSAGAテスト、単元テスト、点字テスト、珠算検定等各種検定等を通して個々の学力の把握に努める。 ・自立活動の指導内容及び方法、評価等を適切に実施する。 ・各教科等を含めた指導では、一人一人の実態に応じた適切な指導の在り方に留意するとともに、教科の視点を鑑み計画、指導にあたる。 ・課題配布を受けての課題テスト、模擬試験等の結果から、個々の生徒に応じた補習を実施する。
●心の教育	<ul style="list-style-type: none"> ●幼児児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動 ●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「将来の自立と社会参加に向け、生きる力や豊かな心を身につけさせる指導が、発達段階に応じて適切に行われた」と回答する教員・保護者80%以上 ○「幼児児童生徒が安心して学ぶことができる環境作りを努め、一人一人の不安や悩みに寄り添いながら、いじめのない学校作りに取り組んでいる」と回答する教員・保護者80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒一人一人の夢や希望をふまえ、学校生活のあらゆる場面で支援と働きかけを行い、生きる力を育てる。 ・防犯、薬物、性教育講話等、さまざまな角度から人権意識の向上に努める。 ・幼児期から特別活動や学校行事等への参加を通して望ましい人間関係を形成し、集団意識を高め、他者への思いやりや社会性を養う。 ・点字ブロック啓発活動や龍谷高校サッカー部との交流などをとおして、社会性や協調性を育てる。 ・学校生活アンケートを実施して一人一人の心の状態を把握し、安心して学べる環境づくりに努める。 ・教育相談体制を充実させる。 ・スクールカウンセラーによる講話と演習を通して自己解決能力を高める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「発達段階に応じた指導が適切に行われている」と答えた保護者が多数、職員は100%であった。 ・交流及び共同学習やスポーツ交流会、バラスポーツの体験会などを通して、他者への思いやりや関わり方について学んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒数が少ないがゆえに他者との交流は生徒にとって重要な経験であり、今後も積極的に行ってほしい。
●健康・体づくり	<ul style="list-style-type: none"> ●望ましい生活習慣の形成 	<ul style="list-style-type: none"> ○「健康観察簿」の記入・提出状況100% ○「日々の健康チェックを通し、将来の自立と社会参加に向けた生活習慣の確立に努めている」と回答する教員・保護者80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康観察簿」への記入と活用を促し、健康チェック(朝食・歯磨き・検温)の習慣を身につけさせる。 ・「保健だより」を毎月発行し、基本的な生活習慣の形成に役立つ情報を発信する。 ・長期休業前に生活指導と保健指導の両面から講話や資料の配布を行い、生活習慣形成への意識付けを行う。 ・進路講演会・懇談会、進路情報などを通して、将来の自立と社会参加に向けて意欲的に取り組もうとする心を育む。 ・種々の活動を通して社会生活や家庭生活に対する関心を高め、基礎的なスキルを身につける。また、適切な勤労観や職業観を育み、将来の進路についての意識を高める。 ・自分の役割を理解し、果たそうとする態度や意欲、コミュニケーションの方法等を身につける。 ・自立心を培い、自主的・意欲的に生きる力を育む。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「幼児児童生徒の夢や希望に応じたキャリア教育及び職業教育ができていく」と回答した職員は100%、保護者は88.2%であった。 ・進路情報を1回発行した。また、職員・保護者対象の進路研修会、生徒・保護者対象の進路講演会等を実施し、幼児児童生徒の将来について考える機会を設けることができた。 ・小学部では、身辺自立の確立、コミュニケーションスキルの向上、手指を用いた作業学習などを学び、将来の自立へ向けて取り組んだ。 ・中学部の職場体験に向けて事業所を見学し、ていねいな事前学習を行うことで効果的な体験ができるよう取り組んだ。 ・高等部では、来るべき自立へ向け、望ましい職業観や社会観を身に付けるべく、就業体験や臨地実習・校外学習等に取り組んだ。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児児童生徒が広い世界を知るためにも職場体験や校外学習が積極的に行われることを願う。
●地域支援	<ul style="list-style-type: none"> ●地域に向けた特別支援学校のセンター的機能の充実 	<ul style="list-style-type: none"> ○「相談支援活動や啓発・広報、地域の見えにくさのある幼児児童生徒への有効な教育的支援が効果的に行われている」と回答する教員80%以上 	<ul style="list-style-type: none"> ・見え方に困難のある幼児・児童・生徒・成人の相談に応じ、適切に支援を行う。 ・地域や関係諸機関に対し、本校や視覚障害教育についての啓発・広報活動等を計画的に行う。 ・弱視学級や見えにくさのある幼児児童生徒の所属校等と連携し、研修会の実施や定期的な情報提供等を行う。 ・巡回相談を行う学校・園に対し、実態や状況に応じた助言を行う。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康観察簿」を通じて健康状態を把握し、毎日の健康チェックへの意識づけができた。 ・「生活習慣の確立に努めている」の回答に対しては保護者、職員ともに100%であった。 ・感染症対策としては、新型コロナウイルスが5類へ移行後も県からの指導助言を仰ぐとともに、引き続き換気や手指消毒などの啓発を行い予防対策に努めた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナ5類移行後の子どもたちの地域社会での関わり方についても指導したほうがよいのではと思う。 ・生活習慣は子どものうちに形成されると思うので、幼児児童生徒との対話を通して今後も育ててほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減 	<ul style="list-style-type: none"> ●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する職員100% 	<ul style="list-style-type: none"> ・定時退勤日を設定し、計画的に業務を行う。 ・必要に応じて学校行事や各職務分掌等の業務内容を見直す。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・「予定していた教育相談や啓発・広報活動、視覚障害教育についての情報発信等を計画的、継続的に行うことができた。 ・巡回相談を各校の要請に伴い随時行い、ニーズに応じた助言等を行った。 ・「県内の見えにくさのある幼児児童生徒や地域一般への有効な教育的支援や相談活動、視覚障害教育についての啓発・広報が適切に行われている」と回答した教員は、100%であった。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・どう業務を効率化していくのか、スリムにできる部分を検討する必要がある。

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目				最終評価		学校関係者評価					
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言				
				○個別の教育支援計画	○個別の指導計画	○校内研究・職員研修の充実	○教育の質の向上に向けたICT活用	○寄宿舎における生活指導	A	A	A

●...県共通 ○...学校独自 ◎...志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望
 今年度は『夢をはくくみ、未来をひらく盲学校』～「ほめる」からはじめる。はじまる。～を掲げ、3つの重点項目を定めた。重点項目の達成に向け、それぞれの取組は年間を通して着実に実行できた。その結果、達成度はおおむね高い評価が得られ、保護者や学校評議員からも肯定的に評価していただいた。県内唯一の視覚特別支援学校として、保護者、学校評議員からいただいた意見や提言を取り入れながら、更なる指導力向上のため研修体制の充実と努めていきたい。また、一人ひとりが安心して学ぶことができるよう、不安や悩みに寄り添う学校づくりに取り組み、幼児児童生徒および保護者のニーズを汲み取った学校運営に努めていきたい。